

2010年3月期第2四半期決算説明会



カシオ計算機株式会社

2009年11月6日

本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの業績とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2010年3月期上期実績、通期決算予測

単位:億円

連 結	2009 / 3月期		2010 / 3月期			
	上期	通期	上期	下期	通期	
	実績	実績	実績	計画	計画	前年比
売上高	2,724	5,180	1,973	2,797	4,770	410
営業利益	182	40	150	100	50	90
経常利益	177	14	130	75	55	41
当期利益	97	231	109	39	70	+161

前年上期比売上、営業利益の概況

売上

携帯電話の減収(全体減収額の36%)

- ・国内向け販売: 想定以上のシェア低下
- ・海外向け販売: ベライゾン向け一部下期へずれ込み

デジタルカメラの減収(全体減収額の27%)

- ・国内市場: 新製品効果でシェアトップに躍進
- ・海外市場: 新製品の浸透の遅れ

デバイスの減収(全体減収額の17%)

営業利益

携帯電話の減収に伴う減益(全体減益額の45%)

デジタルカメラの減収に伴う減益(全体減益額の28%)

デバイスの減収に伴う減益(全体減益額の7%)

下期売上、営業利益の必達に向けて

携帯電話(売上:全体下期計画の約30%)

- ・au向け圧倒的差別化NEWモデル投入でシェア20%以上確保
12.2メガの高画素+ダイナミックフォト機能を搭載した
EXILIMケータイ CA003を11月中旬より店頭販売スタート
- ・ベライゾン向け新製品2モデル投入

デジタルカメラ(売上:全体下期計画の約20%)

- ・圧倒的な差別化機能を搭載したNEWモデル(9モデル)を
集中投入
- ・高付加価値ハイズームジャンル売上拡大
- ・海外の拡大(欧州、中国を軸に拡大)

下期売上、営業利益の必達に向けて

基盤事業(売上:全体下期計画の約45%)

- ・電子辞書はカラー新製品十数モデルを集中投入
- ・時計は女性向け新製品投入とGショックの海外拡大とブランド強化
- ・情報機器は業務用端末及びプロジェクターの新製品投入

新規事業

独自技術に基づいた新規事業の立上げ

- ・新規事業開発センターの体制強化により本格展開
- ・来年CES出展に向けて順調に進捗
- ・来期早期収益貢献

今後の方針

新規事業の業績への貢献

基盤事業(電子辞書、電卓、時計等)の収益力強化

デジタルカメラの海外ラインアップ強化による収益改善

リスク要因の大幅な軽減

携帯電話とデバイスで営業利益大幅な改善

・携帯電話:NECとのアライアンス

・液晶事業:中小型ディスプレイ事業(TFT及び有機EL)の
凸版印刷とのアライアンス

セグメント別売上・営業利益

<ご参考>

単位:億円

連 結	09 / 3期 (53期)	10 / 3期 (54期)		
	実績	計画	内 上期実績	増減率
売上高				
コンシューマ	1,780	1,795	761	+0.9%
時計	804	785	374	2.3%
MNS	1,632	1,290	434	21.0%
情報機器	403	410	174	+1.6%
デバイス	325	247	98	23.9%
その他	237	243	133	+2.5%
合計	5,180	4,770	1,973	7.9%
営業利益				
エレクトロニクス機器	156	52	102	66.7%
デバイス・その他	59	47	22	—
消去	57	55	25	—
合計	40	50	150	—

END